

令和7年度第2回次世代空モビリティひょうご会議

日時：令和8年3月12日（木）10時30分～12時

場所：兵庫県庁2号館5階庁議室

（事務局）

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今回の進行役を務めさせていただきます兵庫県企画部総合政策課の森田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは開会にあたりまして、守本企画部長からご挨拶を申し上げます。

（企画部長）

本日は年度末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。また、平素より県政の推進にあたりましてご支援賜り、改めて感謝申し上げます。

現在、議会で議論しておりますが、先般、令和8年度の当初予算を作成して発表しました。その中で主要なテーマの1つが、万博のレガシーをどのように引き継ぐか、どのように生かしていくかということ、大きなテーマの1つとして予算の中でも掲げています。

その万博レガシーの中の1つがこの空飛ぶクルマであり、万博に向けてこれまで色々と取り組んで参りましたが、引き続き力を入れていくことを打ち出しております。

具体的には、この会議を中心に議論をいただきながら、補助事業や県内でのデモフライト実施、県民への理解促進、機運醸成等に取り組んで参りましたが、引き続き、万博後も歩みを取り止めることなく、取り組んで参りたいと思っており、補助事業につきましては産業労働部の方で、予算査定を乗り越えて予算をつけていただきましたので、事業者の皆様と一緒に、引き続き県内の実装に向けて取組を進めて参りたいと思っております。

本日の会議ではこれまでの補助事業の成果などをご報告いただきます。当初はビジネス化の可能性が果たしてあるのかといった可能性の調査から始まりましたが、今では地元に入り込んで、地元の自治体や団体と一緒に、具体的な方向性を見定めているといった段階にまで至ったということで、この3年間で着実に前進をしていると認識しております。

他方、国との連携が非常に重要だと思っております。高市政権になりまして、17の戦略分野の中に航空・宇宙分野も位置づけられており、その中の1つとして、空飛ぶクルマもしっかりと位置付けられています。

こういった動きとしっかり連携していきたいと思っております。本日は近

畿経済産業局様からも国の動き等についてご報告をいただく予定ですので、是非、国ともしっかりと連携して進めて参りたいと思っております。

ご承知のとおり、空飛ぶクルマにつきましては全国各地で様々なプロジェクトが進んでおります。兵庫県としても、そういった動きに遅れをとることがないよう、出来るだけ先行的に実装に結びつけたいと思っております。

本日は限られた時間ではありますが、先行的な実装に向けて忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、本日はよろしく願いいたします。

(事務局)

本日出席の構成員の皆様につきましては、本来であれば、お一人ずつご紹介をさせていただくところですが、意見交換の時間を十分に確保するため、出席者名簿の配布に代えさせていただきます。なお、本県の出席者として名簿に記載しております、小林産業労働部長及び井筒企画部次長につきましては、急遽、公務の要件が入りましたため、本日は欠席とさせていただきます。大変申し訳ありませんが、ご了承をお願いいたします。

次に、会議の公開・非公開についてですが、これまでと同様、公開とさせていただきます。

次に本日の会議内容ですが、まず初めに今年度実施いたしました、空飛ぶクルマ実装促進事業の採択事業者から取組成果を報告いただきます。その後、事務局から令和8年度当初予算における空飛ぶクルマ事業及び来年度の会議実施方針について説明させていただきます。その後、国における空飛ぶクルマ事業の方向性及び県地域分科会に期待することについて、近畿経済産業局様からお話をいただきたいと思っております。最後に意見交換の時間を設けておりますので、採択事業者からの成果報告や事務局から説明しました来年度の会議実施方針等について、ご意見やご感想を発言いただきたいと考えております。

本日の会議の終了時刻は、12時を予定しております。それではこの後の進行は赤澤座長にお願いをしたいと思います。赤澤座長よろしく願いいたします。

(座長)

皆様、本日もよろしく願いします。先ほどお話がありましたように、万博後、非常に大きな計画としてどのように社会を変えていくかという話が進んでおります。今後、観光立国推進に向けた目標である訪日客6,000万人を初めとして、大きく産業構造や経済構造を変えるような話が続き、空飛ぶクルマといった新しい技術でクリアを目指していくことが期待されるところです。

実装は一足飛びには進まないと思いますが、先を見据えて様々な取組や話し合いを着実に進めていき、いざ実装が出来る段階になりましたら、円滑に進めて

いくことが出来ることを目指していきたいと思っておりますので、本日も様々なご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

では、会議を進めさせていただきます。まず初めに、空飛ぶクルマ実装促進事業採択事業の成果報告になります。事業者からの報告の前にまずは事務局から事業概要の説明をお願いします。

(事務局)

それでは令和7年度空飛ぶクルマ実装促進事業の概要についてご説明させていただきます。

(会議資料 p.08「令和7年度空飛ぶクルマ実装促進事業（概要）」を説明)

(座長)

それでは、採択事業者様から発表を行っていただきます。発表時間は10分程度でお願いいたします。まず初めに兼松株式会社様よろしくお願いいたします。

(兼松株式会社からの成果報告)

(座長)

本日は、令和7年度の実装促進事業の報告と令和8年度県事業の説明、近畿経済産業局からの発表も行っていただきます。皆様からの質疑や意見交換は最後に時間を設けますので、よろしくお願いいたします。

それでは続きまして一般社団法人 MASC 様お願いいたします。

(一般社団法人 MASC からの成果報告)

(座長)

ありがとうございます。以上が事業者による実装促進事業の成果報告となります。続いて、次第3の「令和8年度当初予算における空飛ぶクルマ事業及び来年度の会議実施方針～地域分科会実施に向けた検討～」について、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

皆様、資料10ページをご覧ください。令和8年度当初予算における空飛ぶクルマ事業についてご説明いたします。

(会議資料 p. 09～p. 12 「令和8年度当初予算における空飛ぶクルマ事業」を説明)

次の資料をお願いします。地域分科会実施に向けた検討状況を報告します。

(会議資料 p. 13～p. 19 「来年度の会議実施方針～地域分科会実施に向けた検討～」を説明)

(座長)

ただいまの説明の後半に地域分科会の実施に向けた検討状況の報告がありました。検討をより進めていくため、本日は近畿経済産業局様にお越しいただいておりますので、国における空飛ぶクルマ事業の方向性及び県地域分科会に期待することについてお話をいただきたく思います。それでは、近畿経済産業局様よろしくをお願いします。

(近畿経済産業局)

皆様には、平素より経済産業行政推進に多大なお力添えいただいておりますことに感謝申し上げます。それでは早速ですが、説明をさせていただきます。

今回、当局からは国の動向及び兵庫県地域分科会に期待することをテーマにお話させていただきます。10分間という限られた時間ですので、ポイントを絞って、国の動向に関しましては、空飛ぶクルマの社会実装に向けた官民投資における国の戦略の方向性、その中で地域分科会のような地域活動の重要性という観点でお話をさせていただきます。

こちらのスライドは国の動向を記載したものになります。まずは1つ目に記載がございます日本成長戦略本部についてです。こちらは政府内で、成長分野、重点投資分野について横断的な政策を決める司令塔の位置づけとなります。ここで位置付けられた分野に関しましては、官民連携で地域配分、資源配分を進める重点領域として扱われることとなります。昨年11月に決定した17の戦略分野のうち、スライドに添付しております資料にございますが、航空・宇宙分野が17の戦略分野に明確に位置付けられており、その中の1つのテーマに空飛ぶクルマが位置付けられております。

次に2つ目になりますが、同じくこちらでも昨年11月に地域未来戦略本部が立ち上がりまして、成長戦略に示された重点分野を、各地域で産業クラスターとして具体化する推進の枠組みとなります。こちらは地域ブロックごとに、関係機関、産業界と連携しながら、各成長分野におけるクラスターの地域実装と、投資環境の整備を推進していく役割を担います。ここで示している産業クラスターについては、大きく分けて国が主導して計画を策定するクラスターの計画と、知事が主導して地域が策定するクラスター計画の2つに大別されます。

スライドの添付資料上、赤枠で囲っております、国が策定する戦略産業クラスター計画につきましては、国の役割は全国一律の投資支援ではなく、都道府県のコミットを受けながら、各地域が持つ強みや課題を踏まえまして、投資環境であったり、インフラ整備を後押しすることに重点が置かれております。簡単に申しますと成長戦略本部が国の重点投資方針を決める役であり、地域未来戦略本部がそれを地域で産業として形にする役割という整理になります。

次の3～5ページになりますが、先ほどご説明しました日本成長戦略本部で先日の3月10日に行われた会議で公表された資料になります。こちらで空飛ぶクルマの領域において、官民投資ロードマップ素案が公表されましたので、こちらからポイントを絞って説明させていただきます。

こちらはまだ素案の段階でございます、今後4月を予定しておりますが、セット版の公表がございます。それまで内容がアップデートされますが、今回は基本的な概要のみを説明させていただきます。

まず、官民投資ロードマップとは何かということですが、内容としましては、政府が重点分野における投資の方向性であったり、時期や規模、あとは目標を明確にして、民間投資を先導するために策定する指針となります。

まず、ロードマップ上で示されている政府として目指す市場の目標については大きく2つで構成され、スライドの右側部分になりますが、1つは国内の機体が強みを発揮できる短距離、都市型、観光向けの路線を中心とした市場を獲得していくものです。

2つ目は国内のサプライヤーが国内外の部品供給、MRO市場、特に付加価値の高い領域になりますが、主たる地位とシェアの獲得を目指すということで、先ほど述べました国産機体開発だけではなく、一足飛びにはいきませんが、中長期的な将来目標としては保守整備、部品供給、技術人材育成も含めた、継続的に国内の収益を生む産業基盤の構築も目指していくものになります。

次のスライド4では、先ほど述べた目標達成に向けた戦略であったり、官民投資の具体像が記載されています。ここでのポイントは、機体市場を成熟させていくためには、まずは機体を作れる、試せる、認証できる、そういった環境そのものを国内に整備していくことが不可欠でございます、まずはそういった国産機体の市場を確保するという目標を達成するための直接的な投資戦略に重きを置いている形になります。もちろん部品供給の市場確保についても、要素技術開発投資という項目が記載されており、そういった部品供給の市場が成熟した先には機体の保守整備の市場、つまりMRO市場といった整備市場の獲得についても目標が見えてくるのではないかと考えております。

次のスライドは課題と政策パッケージになります。つまりボトルネックとなる空飛ぶクルマに関する各種不確実性要因がまだまだございますので、不確実

性要因に基づいた課題であったり、リスクを低減することにより、目標を達成するための政策パッケージをこちらのスライドにまとめております。

ご覧の通り、全方位的な政策パッケージ案が記載されており、こちらの内容を細かく説明する時間はございませんので、ポイントのみ説明いたします。

ポイントは先ほどからの繰り返しとなる部分もありますが、機体製造市場が技術、試験、認証、生産設備の投資で市場獲得に向けた時間、リスクを縮めていくこと、そういったリスクを縮めていきながら、部品供給、MRO 市場については、空飛ぶクルマのビジネス展開支援であったり、パーティポートの整備、普及促進を初めとした空飛ぶクルマの社会実装支援を行いながら、需要をしっかりと可視化し、サプライチェーンの形成であったり、機体の保守、整備を将来的にはビジネスモデルとして発展させていくところに力点を置いております。以上が空飛ぶクルマの官民投資ロードマップの説明になります。

3月10日に開催されました日本成長戦略本部会議の資料では、今、ご説明しました内容を1枚にまとめたスライドがこれらのスライドの最後に添付されておりますので、またご覧いただければと思います。

最後のスライドになりますが、これまでは国の動向について説明させていただきましたが、その内容を踏まえて、僭越ではございますが、兵庫県地域分科会に関してお話をさせていただきます。

まず資料左側の社会受容性向上について、先ほどからご説明させていただいておりますが、実装の現場で住民の不安であったり、生活実感に基づく課題把握を最も行えるのは基礎自治体の皆様だと考えております。

兵庫県では基礎自治体の皆様としっかり連携いただき、観光ルートや、航空アクセス、災害時の連携等、地域における具体的なユースケースを示しながら、顔が見える形で合意形成を重ねていただきたいと思いますと考えています。こうした活動の積み重ねが、そのまま制度運用の実現化に繋がりまして、それが最後には商用化までの道筋に繋がるものと考えております。

資料右側に記載の産業基盤の構築について、先ほどお示ししましたスライドの中で2つの市場目標がありましたが、部品供給や整備いわゆる MRO 市場に関しまして、兵庫県に照らし合わせて考えますと、今後、商用運航に向けた実装が進んでいきましたら、便数であったり、稼働に応じた機体の保守整備、部品の需要が可視化されていき、可視化されることによってサプライヤーの投資環境も前進していきます。

あわせて兵庫県では、航空関連を初めとした多彩な企業集積がございますので、兵庫県内において空飛ぶクルマに関する専門人材や部品開発への投資支援を積み重ねていただくことで、地域内の供給力を高めていくことにも繋がっていきます。

地域分科会におかれましては、本日お集まりの皆様方のような様々なステークホルダーを巻き込んだ産学官の継続的な連携の場として、実証から商用へ、需要の見える化から供給の土台づくりの両輪を見ながら、将来的な兵庫県内における産業クラスター構築への橋渡しをする役割を担っていただきたいと考えております。

最後になりますが、近畿経済産業局といたしましては、関西における空飛ぶクルマの社会実装と産業実装を進める上で、兵庫県地域分科会が非常に重要な存在になると考えておりますので、引き続き連携をお願いいたしまして、近畿経済産業局からのご説明とさせていただきます。

(座長)

ありがとうございました。それでは残りの時間を使いまして、意見交換を行いたいと思います。実装促進事業採択事業者様から発表いただいた内容や事務局から説明がありました令和8年度実施事業及び地域分科会の検討内容につきまして、ご意見やご感想などがありましたらご発言をお願いしたいと思います。

オンライン参加の方は挙手ボタンを押していただきましたら、順番に指名させていただきます。

(構成員)

先日公表されましたが、我々は関西・瀬戸内圏内で20ヶ所のポート設置に向けて活動を進めております。そういう意味では、兵庫県内において非常に重要な施策のお話や、皆様のお話を伺いまして、是非、今の計画実現に向けて取組を進めていきたいと考えております。

加えて、分科会の話もありましたが、瀬戸内エリアや神戸、淡路島といった具体的な地点の話もありましたので、分科会の中で我々としては、今進めている計画を更に粒度を上げて、実際のポート設置に向けて取組を進めていきたいと考えております。分科会の参加も含めて、今後も兵庫県と連携させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

(構成員)

令和7年度に事業者において実施された事業や調査活動などを受けて、令和8年度に新たに地域分科会を立ち上げることは、意義ある進め方だと感じました。

この会議に地元紙であるメディアが参加している役割というのは、大きく2つあると思っております。1つは新しい技術であったり、制度の動きを分かりやすく伝えて、県民の理解や関心を深めて、社会受容性の向上や機運を高める橋

渡し役的な役割があると感じています。

そしてもう1つは、安全性や環境への配慮、地域への影響について、こういったところの論点を丁寧に掘り下げて分かりやすく伝えていくという、チェック機能的な役割もあると感じております。こうしたことを踏まえまして、地域分科会は、同じような役割を担えるのではないかと感じております。

多様な地域や環境が存在する兵庫県において、但馬、淡路の環境は当然に違いますので、各地域のニーズを踏まえて作り上げていくということは、橋渡し役であったり、チェック機能を担えるのではないかと感じております。そして、地域のニーズを踏まえて検討していくということが、この事業の推進において、県全体の全体最適に繋がっていくのではないかと感じております。

(構成員)

地域分科会の設置を是非、よろしく申し上げます。我々としましても、今回の事業の先に、淡路3市との協定や協議会、勉強会等を進めていく予定にしておりまして、そちらとの関連性や歩調を合わせていきたいと考えておりますので、協力しながら進めさせていただければと思っております。

(企画部長)

地域分科会の内容はもう少し精査する必要があると考えておりまして、既に豊岡市では協議会を立ち上げていますが、そちらとの関係性や役割分担等を検討する必要があります。

また、資料にも記載しております通り、皆様からご意見を頂戴している中で、どこまで具体的な議論をこの地域分科会で行っていくのかということころは、非常にセンシティブな面もあり、あまり具体的な内容になりますと、各社の戦略等との兼ね合いから事業者の皆様は参加しづらいかと思っておりますので、具体性の度合いや既存の会議体との役割分担は精査する必要があると考えております。

(座長)

例えば、社会的受容性を高めるということは分かりやすいと思いますが、近畿経済産業局からもお話がありました産業クラスターの形成などは難しい部分もあるのかなと思います。

(構成員)

我々が市町とお話ししている感じでは、やる気はあるが、どう進めていいか分からないといった声をお聞きしています。県の役目としては、市町をその気にさせる役割が大きいと考えています。

補助金や事業をするにしても、市の方が受け身ではなく積極的になっていただくということが重要だと思っておりますので、そのあたりの役割を担っていただければと思います。

(企画部長)

そういった声は非常に多く聞いておりました、豊岡市のように特に感心をお持ちの市町は、県から働きかけていく必要がないかもしれませんが、例えば、但馬地域でも豊岡市以外は、それほど温度が上がっていないところもありますので、豊岡市からの声を聞くと、豊岡市単独では取組を進めていくことが難しい面もあるとのことですので、どのようにして但馬全域の自治体の機運を盛り上げていくかといった点や、北近畿エリア、京都北部等と連携する上でも、県の役割は大きくなってくると思っておりますので、県だから出来るところは、この会議体の中で役割を果たしていきたいと考えております。

(座長)

関連してですが、今後、人口が減っていく中で、地方自治体の方でも新しい産業や工場をどのように立地していくのかということが、死活問題になっていきますので、こういった新しい試みには、かなり目を配っているかと思えます。そういったことの調整も含めて、県の役割があるのかなと感じています。

(構成員)

近畿経済産業局のお話にありました実証から実需を作るということは、いよいよ万博も終わり、万博レガシーとして実需を作っていくという未来像も含めたバックキャストによるマーケティングが必要だと思います。

弊社にも空飛ぶクルマに関する質問や相談が来るのですが、ヘリコプターを使ったプロジェクトを動かそうということで動いております。

今、国の方で目指しているインバウンド市場について、2025年で4,270万人、9.5兆円までできましたが、あと4年でこれを15兆円にするという目標が掲げられています。この中で、空域観光にどの程度の可能性があるかのシミュレーションを行いたいと思っております。

実際に、訪日する外国人の平均消費単価は25万円ぐらいですが、今、一番注目してまますのはMICE市場の中でもMeetingやIncentive分野でして、日本に来た際に1回で4~500万円消費する層を、空飛ぶクルマに乗せることができないかということで、観光庁の実証実験に弊社が中心となって、神戸市のDMOと動いております。

来週に観光庁に提案予定なのですが、関西文化圏回廊プレミアムMICE推進協

議会というものの立ち上げを国に提案していきまして、神戸空港での実証実験を8～10月に行いますが、ツアー造成にあたって1時間あたり200万円程度の費用がかかる超ラグジュアリーヘリコプターを使って、2泊3日のプランを検討しています。初日に国際的に人気の高い神戸市内の竹中大工道具館を体験し、2日目は神戸空港から大阪城と仁徳天皇陵を上から見る空域遊覧を楽しんだ上で、高野山のヘリポートに降りて3時間程度の世界遺産建築見学と体験メニューを楽しんだ後、奈良県のヘリポートに向けて再びフライト。3日目は唐招提寺など木造建築物の解説を行うという建築業界・学会などをターゲットにしたスーパー富裕層向けツアーの実験を提案する予定です。

実需として1回のフライトで1人100～200万円という商品が売れるかどうか、観光庁や日本政府観光局とも連携しながら、マーケティングも実施していく予定ですが、観光庁事業では3つの自治体と連携した提案が求められており、奈良県と和歌山県に賛同いただき、神戸市と3つのエリアで提案します。

また今後、2030年のIR開業もあり、国際会議の誘致についても相談を受けていますが、2030年に空飛ぶクルマでこのようなフライトが出来ますということを示すためには、準備を進めていく必要がありますが、これまで4年間空飛ぶクルマに関わらせていただいて、多分具体化できる状況になっていると思います。

ただ、空飛ぶクルマビジネスが実現するかどうかということは微妙な部分もありますが、関係者連携で空域観光をやろうというスキームが一気に出てきて、観光庁に採択いただければ、具体的に5月から進めていこうと思っていますので、ご注目いただきたいと思います。

(座長)

国際観光については、2030年が機能強化の1つの目標として設定されていて、兵庫県としてはかなり大きなインパクトになると思っています。

(構成員)

ただし、今は原油高騰があつたりしますので、本当に15兆円が達成できるかは、国際情勢や地政学的なことがあります。ただし、日本政府が発表したもう1つの目標として、2030年に国際会議の開催件数を世界7位から5位に上げるということもありますので、イギリスやフランスを抜いて世界5位の国際会議開催というかなり大きな装置が大阪湾に誕生する、そしてこの関西ベイエリアにおいて、兵庫県の占める割合や価値を考えると、この市場に関してはしっかりとコミットしていくべきだと考えています。

(構成員)

先ほどの地域分科会の関係で少し情報提供になりますが、ご存知のとおり、豊岡で協議会を立ち上げて活動しています。ただ、我々としても思っていたのが、本当に観光以外で乗る人がいるのか、地域の事業者の皆様がどう思っているのかということをごく気にしており、空飛ぶクルマが地域にどのような社会的なインパクトが得られるのかということをご定量と定性で出せないかと考えました。

そこで、今年度の補助金を活用させていただいて、地域の産業の方々と一番繋がりがあがる地域金融機関とともに半年に渡って、空飛ぶクルマとは何か、地域課題は何か、そこをつなぐユースケースは何か、それを定量的、定性的に社会的インパクトとして出していくため、机上の話だけではなく、地域の皆様からアンケートを取った上で出しました。

結果的に大変反響も大きく、是非、資料が欲しいといった声が多くありまして、更に発表するだけではなく、豊岡市の協議会の中で地域としてどのように空飛ぶクルマを活用していくかということをご議論する土台資料として使える形になったことで、大変意義があったと思います。

この取組を進める中でとても印象的だったことが、そもそも空飛ぶクルマの認知自体があまり良くない。認知されると、理解に進み、皆さん知りたくなるということが、500の企業からいただいたアンケート結果に出ました。

つまり、広報活動は結構していますが、まだまだ空飛ぶクルマの認知は得られておらず、そこを頑張るといことは重要だと思っています。そういった意味では先ほどお話にも出ましたが、メディアの方との連携等も非常に重要だと思っています。

そういった観点で、神戸でも是非やっていきたいと考えており、今年度、大丸神戸店と連携させていただいて、明石町筋で空飛ぶクルマの展示を行い、神戸市民の方に知っていただく、まずは認知を獲得することをやっていきたいと思っていますので、空飛ぶクルマ事業者だけではなく、地域の事業者との連携も分科会では重要になってくると思います。

(座長)

県の施策全体に対しても言えることですが、社会受容性がなかなか高まらないということは政策全般にも言えることで、この事業にも関連するような、例えば、淡路島関連では色々な開発の施策もありますし、そういった中でもしも空飛ぶクルマが実装されるならばといったように、2030年に向けたことを投げかけ、社会受容性や認知を高めながら、同時に施策への踏み込みということも、一緒に検討できるといいのかなと感じます。

(構成員)

基礎自治体としては、外から来てもらうことも大事だと思いますが、地域の事業者や住民の方々がどう思われるかという方が、おそらく重要だと思いますので、そういったところにもきちんと力点を置いた議論は、逆に分科会でしか出来ないと思いますので、そういったテーマは重要であると思います。

(構成員)

認知度を上げることは非常に重要で、万博は認知度向上にとっても繋がった場であり、教育の場でもあったと思います。ただし、常設ではないです。空飛ぶクルマを常設で知ることが出来る場所は、今、倉敷にはありますが、これを兵庫県の中に常設で自分が思った時に見られるかどうか重要だと思っています。

弊社で言いますと、農業を普及するときに、本社の屋上に常設の田んぼ作った。これは結構、影響力がありました。やはり空飛ぶクルマも、人を育てるため、子どもでも入ることが出来る常設の場所を検討いただきたいと考えています。

見ていただいた人の中には、作りたい人、サービスを提供したいと思う人もいれば、学校に行きたいと思う人もいますので、是非、県としては常設で、いつでも子どもでも学べる簡単さを併せ持った場所を並行して作っていただけたらと思います。

私の経験上、大人から説明しても高齢者の方が納得することは少ないです。子どもからの話になると、一気にひっくり返ります。ですので、子どもでもわかる、子どもから伝えるということを意識して、子どもをいかに巻き込んでいくかということ、同時並行でやっていくと広がっていくと思いますので、是非、そういったことをご支援いただければと思います。

(座長)

海外では科学博物館が産業史から最新のものまで、そういった役割を担っていることもありますが、県立博物館では無いかと思いますので、神戸市や他の場所で、色々な学校や団体が必ず来る場所があると思いますので、空飛ぶクルマが分かるような展示が出来ればいいのではないかと思います。

展示会ではよく見るのですが、確かにもっと子どもが目につく場所で出来ればと思います。

(構成員)

私の方からはものづくり系の立場で少し話をさせていただきます。近畿経済産業局からもお話がありましたように、商用から立ち上がりますが、最終的には、地域の中でサプライチェーンも含めた MRO 市場に県内の事業者が関与していく

ことが出来るようにしていきたいということですので、そのような県内の事業者には空飛ぶクルマに興味、関心を持ち続けていただくということが非常に大事だと思っております。

特にこういった息の長い、少し先の産業に関してはそこが大事だと思っておりますので、今回、兵庫県の方で事業化等準備に関して予算をつけていただき、見える形で県が支援を打ち出していただいたことは非常に意義があると考えております。

色々な問題があり、製造業というところまで、この産業が立ち上がるには、少し時間かかりますが、息の長い支援を続けていただければと思います。

(構成員)

私からは3点お話ししたいと思います。まずは、全国で万博以降、早く実装するための取組がなされているということをご存じかと思いますが、型式認証が遅れていたりする中で、開発途中の機体のデモ飛行であったり、ヘリコプターを使った実証であったり、そういった話になってしまっていることが現状だと思います。

その中で地域課題をしっかりと考えるというこの兵庫県の取組は、本当に全国の先駆けとして素晴らしいと思っております。また、豊岡での取組も実際に取組を進めておられるので、環境アセスの問題等の具体的な課題が出てきて、それに向けて取り組まれており、大変素晴らしいと思っておりますので、是非、これからも続けていただきたいと思っております。

先ほど出たお話の中で、事業を行う上で補助が欲しいという話がありました。これは東京の方でも、大手の運航業者が運航費の補助をして欲しいであったり、離着陸場を作るときに補助をしてくれないと事業が出来ないという議論があるのですが、支援の方向性としては2つあると思っております。

事業者を支援する方法として、まずは規制を取り払う、規制を緩和するということが1つあると思っております。アメリカのトランプ政権のもとで、ニューヨークやいくつかの都市で型式認証が取れる場合にパイロット的に運航してみるということがありました。これも規制緩和の1つではないかと思っております。また、型式認証も限定型式認証という形で観光遊覧から始めるとか、こういったことも考えられる。そういう意味では特区みたいなもので、そういうこともある程度を認めていくといったことも考えられる。是非、地域分科会を実施されるのであれば、こういったことを一緒に検討するということになれば、先ほど話がありましたような、具体的な内容になると話しづらいつつといったことはないかと思っております。

もう1つの方向性としては、公的資金を出すのであれば、社会受容性が高く、ニーズもきちんとあるようなものにする。例えば富裕層向け、インバウンド向け

の観光のようなものは、公的資金を出すのことにについて納税者からするとどうなのかという問題があるのですが、逆に公的用途であれば納税者も納得するのではないかと。例えば、救急医療とか災害だと頻度は少ないのですが、地域医療がどんどん崩壊する中で、医師派遣とか転院等になりますと、エアタクシー並みにニーズはあると思います。そういったものであれば、ある程度、地域創生ということで自治体から提案をして、国から支援を獲得し、全国に先駆けてパイロットプロジェクトを行っていく考え方もありますので、そういうテーマを地域分科会でお話出来れば良いのではないかと思います。運航業者がなかなかいないのですが、話を聞いてみると儲かるのであればやりますという運航業者はたくさんあります。ドクターヘリを運航している事業者は公的資金が出るのであれば、いつでも運航すると皆様言われているので、そういう面で行くと、全国で最初の自治体を獲得できる可能性が高いと思います。そういったことを官民で考えていただくことがいいのではないかとということが地域分科会に向けた提案です。

3つ目は地域と国で少し意識がズレているのではと思っていることがあります。例えば国の官民協議会は基本的に自治体がメンバーに入っておらず、産業界が中心です。ところが自治体では、住民ベースで社会受容性を考えたり、経済だけでなく地域課題も抱えています。

国土交通省が実施しているパーティポート施設のあり方検討委員会というものがあるのですが、有識者は公共交通や公共政策の専門家もいますので、この会議体でもそのような有識者に参加してもらおうということもあると思います。

そういう意味では地方自治体になりますと、総合政策という意味で見て、地方自治体と企業で、是非、特区で規制を緩和するとか、プロジェクトを全国に先駆けて実施するとか、そういうことを一緒に考えるということもあるのではないかと思います。

(座長)

ありがとうございました。全ての事業者の方からコメントをいただくことが出来ておりませんが、時間が来ておりますので、大変申し訳ありませんが、まとめに入らせていただきます。

私としては、話にもありましたように、2030年に向けて取組を進めていくということがはっきりとわかってきましたし、認証の件を少し置いておけば、かなり具体化してきていると感じます。それを刻んでいき、もしも飛んだらという大きな話だけではなく、個別の地域課題とどのように組み合わせていくかという話が地域分科会を通して出来れば良いのではないかと感じました。

それを進めていくと、県の説明資料の最後にありましたが、もう少し広域の連携といいますか、城崎から京都北部や鳥取方面、淡路島から瀬戸内海方面等、

色々なところで組み合わさっていく可能性が、取組が具体化すればするほど高まっていくかと思えますので、そういったことも地域分科会発で、最初はオブザーバー参加でも結構ですが、こういったことを真剣に具体的に進めているということ、周りの方々も含めて検討を進めていくとより実現性も高まっていく気がいたします。

先行して但馬の方では協議会等、取組の具体化が進んでいますが、淡路の方でも地元自治体が興味を示していますし、県の施策として夢舞台についてもホテルや国際会議場、公園等の様々なものが新しいものになっていくということが県施策として進んできています。また、大阪湾ベイエリアの活性化も阪神間から神戸、淡路島を含めて県が取組を進めていますので、そういったことに空飛ぶクルマの実装が出来れば、どのように寄与するかということも早く情報をオープンにしていき、機運を醸成していければと感じました。

本日予定しておりました議事はすべて終了しましたが、最後に産業労働部中村次長からコメントをいただきたいと思えます。

（産業労働部次長）

皆様、本日はご議論いただきまして、ありがとうございました。

いよいよ県でも実証段階から実装に向けてステップアップを図っていく段階になっております。今日は兼松（株）と（一社）MASC からご報告いただいて、但馬・神戸・淡路地域では実証の成果も出てきており、人材育成や事業採算性等の観点でも検証していただいて、いよいよステップアップを図れる段階にきていることを実感いたしました。

近畿経済産業局様からもご報告いただきましたように、今後地域ごとにクラスターを作っていくという中で、官民の投資ロードマップというものを示されまして、自治体がコミットしながら進めていくということですので、兵庫県としてもクラスター計画の認定の中で参画しながら一緒にやっていきたいと思えます。

また、地域分科会で議論することについても色々ご議論いただきました。社会受容性の向上を図るということで、具体的なユースケースも示しながら合意形成を図っていくと良いのではないということや、部品市場等の産業基盤を構築する中で、クラスター形成の橋渡しを担っていくと良いのではないか等、具体的にご提案もいただきましたので、その点を踏まえて来年度、産業労働部が実施する事業と地域分科会を上手く連携させていきながら、取り組んでいきたいと思えます。

ご意見の中では、どのようにして認知を獲得するのか、知ってもらうのが大事だとのことで、メディアの役割であったり、金融機関の方で具体的なデータを

出していただけたという報告がありましたので、そういったことも活用させていただきながら、認知度向上を図っていきたいと思います。

いずれにしましても、引き続き皆様と議論させていただきながら、官民連携で来年度も実装に向けて取組を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

(座長)

ありがとうございます。最後になりましたが、皆様におかれましては円滑な進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。それでは進行を事務局にお返しします。

(事務局)

本日は貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。本日の会議結果につきましては、議事録として個人のお名前を伏せた形で、県のホームページで公開することとしております。掲載の前に出席者の皆様には案をお送りいたしますので、ご確認をお願いしたいと思います。

また、令和8年度の会議は分科会も含めまして、日程や内容等、本日の会議でいただいたご意見も踏まえまして、事務局で改めて検討の上、ご連絡をさせていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。